

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和4年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	大阪大学	整 理 番 号	1812
プログラム名称	生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養		
プログラム責任者	熊ノ郷 淳	プログラムコーディネーター	森井 英一
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>学長の強いリーダーシップの下、中間評価時のコメントやPOのコメントなどを生かしてプログラムを着実に進化させている。「研究実践力の涵養」と「社会実装力の涵養」をバランス良くプログラムに落とし込み、「社会と知の統合」の理念を実現している。具体的に述べると次のような進展が見られる。</p> <p>まず、複数の科目を集めたモジュール化によるプログラムがよく機能していて、高度な「知のプロフェッショナル」を育成する基盤となっている。このモジュール化が、今後の大学院改革全般に生かされることが期待される。「社会実装力」については、令和元年度現地視察報告書のコメントに従い、民間ベンチャーキャピタルとの連携を強めることによって「社会実装力」の強化を図るとともに、中間評価時のコメントに従い、社会実装力などの評価基準を明確にした。加えて、特任教員として雇用された若手教員を生命医科学分野における社会実装教育のプロフェッショナルとして育成し、常勤教員として承継ポストに就いているが、これは本プログラム採択時の留意事項に十分応える形になっている。コロナ禍対応については、留学に代わる機会としてアカデミック交流をオンラインで実現したことなど工夫の跡が見られる。さらに、新入生に対して3層のメンター制度を用意し、中間評価時の留意事項に真摯に対応している。</p> <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <p>「医歯薬生命系戦略会議」において大学院改革が検討され、医歯薬生命系各研究科が一体となった大きな大学院設置の方向に舵が切られている。さらに、国際共創大学院学位プログラム推進機構が設置され、全学的な大学院改革が進行中である。本卓越大学院プログラムは、DWAAの基本理念に基づき分野融合的・横断的なプログラムを実践しているが、これが全学展開される形になっている。「知と知の融合」（学際融合の推進）の領域と「社会と知の統合」（社会課題の解決）の領域の教育プログラムである「知のジムナスティックス」が全学的に展開すれば、本卓越プログラムの実践を契機として、大学院改革が医歯薬生命の領域を超えて大学院全体に波及することになる。</p> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <p>「改善を要する」というほどではないが、留意点として以下の点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会実装の教育プログラムはよく考えられており、またうまく機能しているが、未来社会を見据えた社会課題の解決に切り込むような教育があってもよいのではないか。 (2) 学年、分野を超えて学生同士あるいは学生と教員とが交流できるような場の形成が望まれる。 (3) 短期的インターンシップに加えて、中長期のインターンシップ制度を実施したらどうか。 			

- (4) メンター制度は十分配慮されて実施されているが、学生メンター制度がやや機能していない懸念があるので、改善が必要である。
- (5) 5年制コース D1、及び4年制コース D2 での QE は書面のみによるが、口頭試問があってもよいのではないか。
- (6) 優秀な学生をコンスタントに集めることに成功している実績を含め、本卓越大学院プログラムがグッドプラクティスとして広く内外に発信されることが望まれる。
- (7) DWAA や「知のジムナスティックス」に基づいた教育プログラム、そして「社会と知の統合」を実現するための「社会実装教育」が着実に人文社会科学系の大学院改革に反映されることが望まれる。